

1 DX推進戦略の概要

(1) 策定の背景と目的

人口減少や少子・高齢化の進行、働き手の不足など、これからのまちづくりに大きく影響する課題が生じています。特に、社会を支える中核となる生産年齢人口の減少は、地域経済の活力や行政サービスの担い手不足に直結し、喫緊の対応が求められている状況です。あわせて、社会全体ではデジタル化が急速に進み、暮らしや仕事のあり方が大きく変化しています。このような時代の変化に対応し、市民が安心して暮らし、将来に希望を持てるまちをつくるために、本戦略を策定します。

これまで山形市は、市民・事業者の皆様の視点に立ち、「行かない」「書かない」「迷わない」の取組をはじめ、行政サービスの改善に努めてきました。

しかし、この大きな時代の転換点を乗り越え、未来への歩みを確かなものとするために、従来の改善を更に発展させ、新たな価値を創造していくことが不可欠です。

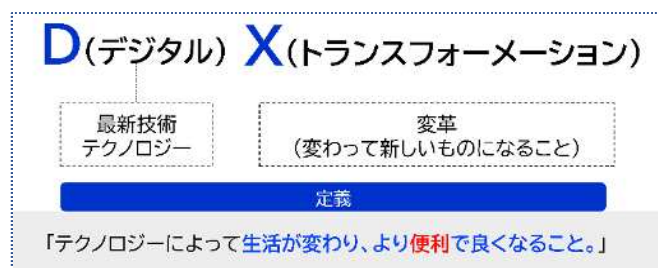
本戦略は、その新たな価値創造を実現するための具体的な指針です。目指すのは、これまで築き上げてきた「便利」さを土台とし、市民・事業者の皆様の暮らしの中に、DXでしか成し得ない「新しい価値」を創出するため、チャレンジしていくことです。

(2) DX推進戦略ビジョン

山形市のDXは、「行かない」「書かない」「迷わない」のさらなる進化を目指します。

やまがたDXチャレンジ
便利は、もう当たり前。
「便利」を更に追求する、それが「やまがたDXチャレンジ」

(3) DX(デジタル・トランスフォーメーション)とは



山形市 DX 推進戦略のイメージロゴ

(4) DX推進戦略の位置づけ

本戦略は、山形市の最上位の計画である「山形市発展計画 2030」が掲げる将来像を実現するため、DXを推進するための実行戦略です。

①横断的な位置づけ

デジタル技術の活用とDXの推進を、各施策に共通する横断的な視点として位置づけています。

②国の計画との関連

デジタル社会形成基本法や自治体DX推進計画など、国の示す法令や方向性に準じて策定します。

③既存計画の統合

「山形市スマートシティ推進基本計画」を本戦略に統合し、一体的な取組として推進します。

(5) 推進期間

Step1:令和8年度～令和10年度(3年間)

Step2:令和11年度～(次期の推進戦略にて推進期間を設定予定)

ただし、社会情勢や技術動向の変化に対応するため、必要に応じて柔軟に見直しを行います。

2 山形市の取組について

(1) これまでの山形市の取組

健康DX…健康ポイント事業「SUKSK」を通して、市民の「SUKSK生活」を推進など

文化DX…ユネスコ創造都市(映画分野)としてのデジタル活用(発信、アーカイブ)など

行政DX…オンライン申請、コンビニ証明書交付、電子入札導入、申請書作成支援など

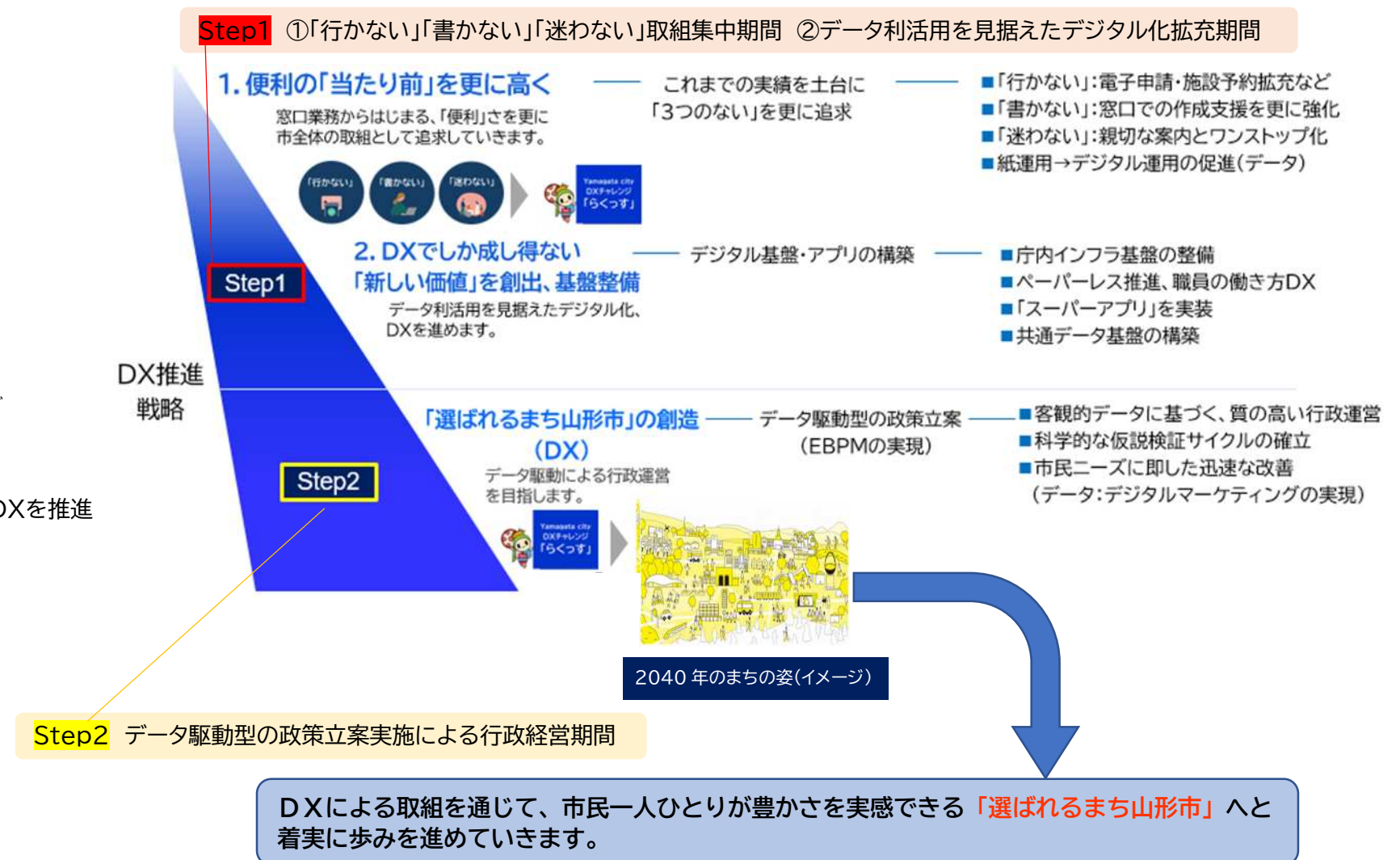
※その他、農林、教育、福祉、地域交通、こども、都市整備、観光、商工などの各分野で推進

3 山形市が目指すDX

(1) DX推進戦略の取組の流れについて

「当たり前」のレベルをもう一段高め、発展計画に掲げる全ての施策で「便利」さを更に追求すること。

データがつながることで、市民一人ひとりに寄り添う「新しい価値」の創出を目指します。



(2) より便利な手続きを目指して

3つの「ない」

これまで市民・事業者の皆様との一つひとつの関わりを「便利」で価値あるものにしてきた実績を基盤とし、今後も「行かない」「書かない」「迷わない」の取組をさらに進化させてまいります。



行かない 市役所へ行かなくても、ご自宅のスマートフォン等から手続きを済ませられることを原則とし、市民・事業者にとってより身近な市役所にします。

書かない これまで市役所の手続きでは、多くの書類に氏名や住所等を繰り返し記入いただく必要がありましたが、さらに書かないを進め、より快適な市役所にします。

迷わない 手続きの事前準備から完了まで、どなたも迷うことのないよう親切な案内や仕組みに努め、よりわかりやすい市役所にします。

(3) DXで変わる市民・事業者の暮らしと市役所の姿

市民・事業者の皆様へより「便利」で質の高いサービスをお届けするため、市役所は、職員の創造性を最大限に発揮できる組織へと進化します。



(4) より質の高い行政経営を目指して

① 業務プロセスの最適化と生産性の向上

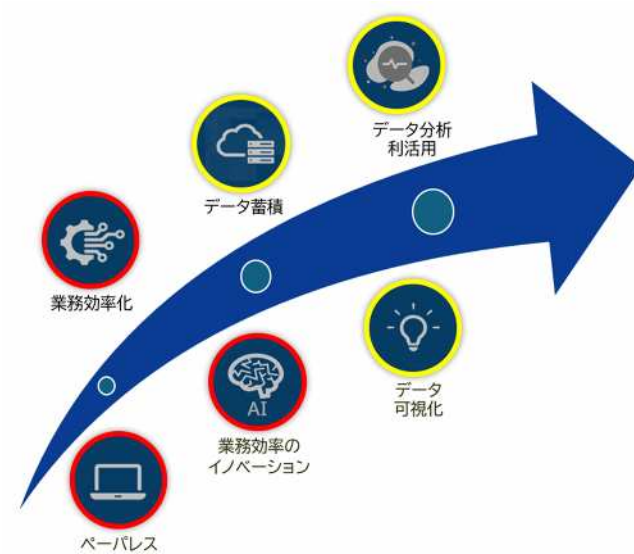
- 最新のデジタル技術を積極的に業務に取り入れ
- 従来の業務プロセスの見直し
- 時間外勤務の削減、組織全体の生産性の向上

② 市民サービスの質の向上と新たな価値の創出

- 業務効率化によって生み出された時間や資源
- 市民のニーズに寄り添った、より質の高い行政サービスの企画・提供に注力
- データ駆動型の行政経営を見据え、紙からデータへ

③ 柔軟で創造的なワークスタイルの確立

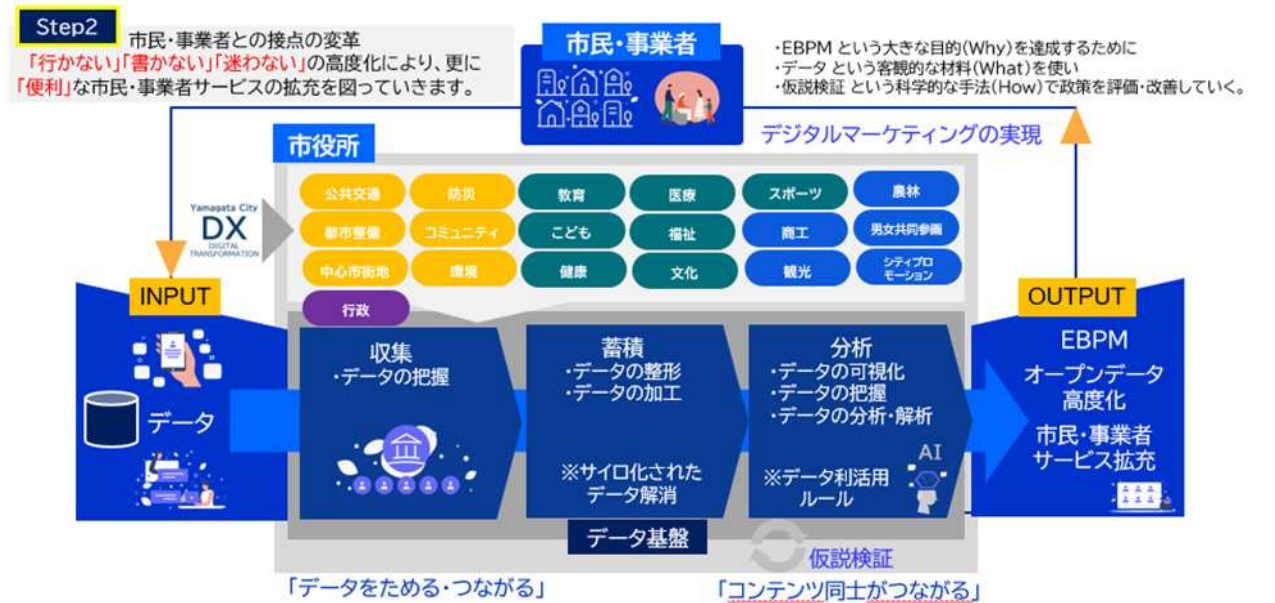
- デジタル社会にふさわしい働き方の確立
- 職員が能力を最大限に発揮できる、創造性豊かな職場環境の構築



(5) 変わる職員の働き方(働き方DX)



(6) 目指すデータ駆動型の政策立案と行政経営



4 ロードマップ

	R8(2026)	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)~
	Step 1 1. 「行かない」「書かない」「迷わない」取組集中期間 2. データ活用を見据えたデジタル化拡充期間			Step 2 データ駆動型の政策立案と行政経営
新たな取組	1. データ基盤		データ基盤構築	
	2. クラウドツール	クラウドツール導入の検討	継続	
	3. 書かない、迷わない窓口	書かない窓口の拡充	継続・拡充	
	4. BPR	BPR 調査、取組	継続・拡充	
	5. ペーパーレス取組	インフラ環境整備	継続・拡充	
	6. 行かない窓口	オンライン申請、施設予約の拡充	継続・拡充	
	7. スーパーアプリ	調査、サービス研究	スーパーアプリ導入の検討	継続・拡充
	8. フリーアドレス	実証 無線LANの整備	実装(随時)	実装(随時)
	9. DX推進リーダー研修	研修実施	継続	継続
既存取組	【主なDX取組】 健康(SUKSK, AIアドバイス)、子育て(母子手帳アプリ、おやこよりそいチャット)、教育(電子黒板、AIドリル、保護者への発信、心の天気、デジタル採点と校務支援システムとの連携)、交通(らくのる、シェアサイクル)、孤独対策DX(つながりよりそいチャット)、救急DX(救急医療情報共有システム)など。			
山形市発展計画2030 「健康医療先進都市」「文化創造都市」19施策の推進 国等が示す主な法令、方向性 自治体DX推進計画等の推進、PMH、eL-QRなどの推進				